

年間を通じて多摩川の河川敷に散歩に出かけ、季節に応じて様々な種類の植物や動物に出会う。また広い範囲の多摩川についても学び、鉱物や地域の歴史にも触れていく。多摩川を媒介に、年齢に応じて自分の周りの世界と体験を通してつながっていく学びをする。

## ② 高等部における地学、及び様々な実習

11 年生（高校 2 年生）では、エコロジカルフットプリントという概念を通して経済地理を学ぶ。

9 年生（中学 3 年生）では、宮崎県綾町の農家に 3 週間滞在し、働きながら自然農や有機農といった持続可能な農業と食について学ぶ。また 11 年生（高校 2 年生）では、近隣の障害者施設で 3 週間の福祉実習を行う。そこでは様々な個性を持った人々と直接触れ合うことにより、私達様々な人間がお互いに助け合って生きていることを学ぶ。12 年生（高校 3 年生）では、東京都大島で 3 日間、自然観察学習を行う。そこでは生態系の見方を学び、森林開発及び森林保全の在り方を学ぶ。

## ③ 高等部におけるヨーロッパ美術旅行

12 年生（高校 3 年生）では、高等部 4 年間を通して学ぶ美術史と建築史の学びの総括として、ヨーロッパに 3 週間の美術旅行に行く。それは人類の歴史及び意識の変遷を、芸術を通して学んできた生徒達が、本物を体験する瞬間である。また旅行中には、ドイツのユネスコスクールであるニュールンベルクシュタイナー学校にホームステイし、お互いの学びを披露しあう時間も設け交流する。生徒達は世界へ大きく視野を広げ、国という枠組みを越えて彼らを友人として接する機会を得るのである。

## ④ 教員養成に関わる活動

年間計 4 回、8 日間の教員養成講座を開いている。国内のシュタイナー学校同士で単位を認め合い、より開かれた講座になるよう努めている。また本校においては教育実習を含めた数年間の養成期間を経たのち、ベルリンシュタイナー教員養成学校からシュタイナー学校の教師としての資格を取得できるようにもしている。今年度は 26 名の受講者が参加した。



### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 農業実習、福祉実習、自然観察合宿等の宿泊実習 )	

--

## 3

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

子供の成長に応じたシュタイナー教育のカリキュラムにある、100 分間、3～4 週間続けて 1 教科を学ぶエポック授業を基盤にした年間指導計画を各学年で立てている。エポック授業そのものがホリスティックな学びであるため、ユネスコスクールとしての活動は、私達の学校の根幹をなすものである。英語や手仕事など他教科も、エポック授業とつながりを持たせた内容となっている。指導内容については、子どもの年齢に応じた人間観を基盤にしつつも、毎週行う教育職員会議及び様々な校内校外研修を通じ、絶えず学び確認をしている。指導方法の工夫改善についても同様である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

内部では毎週教育職員会議を開き、教育活動についての学びをしたり、反省評価をしたりしている。毎週開かれる事務職員会議では、幼児部から高等部の教師と事務局担当が集まり、実務的な活動について全職員で取り組める体制を作っている。また毎月 1 回親理事と教師理事が集まり、運営の方針について話し合う時間を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

上記の他に外部からの評価として、高校 3 年生の卒業論文発表にはいくつかの大学からの教授や専門分野に関わる方々を招待し、直接コメントを頂いている。また学習発表会や演劇公演の際にアンケートを取っている。そこでは、子ども達が落ち着いて堂々と発表している、また今までの様々な分野の学びを自分の興味と繋げ、社会とつながっていかうとする姿勢が発表から窺われる、等の高い評価を得ている。課題は、多くの発表の機会を設けているが、学校の施設が小さく大人数を収容できないこと。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では毎学期末に学習発表会を開き、日々の学びの成果を外部に公開している。高等部での各種実習の報告会や、様々な演劇や卒業論文発表会も行い、生徒の生の姿や作品を直接見せる機会を多く作っている。学校のホームページや SNS を通じて発信をしている。また、本校の教師が大学を訪問し授業の一環を見せることもしている。少しずつではあるが、ESD の考え方やその成果に興味を持つ人が増えていると考える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

小学3年生では、近隣の農家や鍛冶屋など働く人々を訪ねる学びをしている。高校2年生では、福祉実習として3週間、地元の障害者施設で活動をしている。宮沢賢治ゆかりの岩手県中野七頭舞を地元国立市民祭りで毎秋披露している。卒業論文発表では、大学教授を招き審査を依頼、また様々な大学からの教授や学生の学校見学、授業見学を受けている。今年度の全国シュタイナー学校教師の集いでは、大阪府立大学の吉田敦彦教授、聖心女子大学の永田佳之教授の講演を聞き、学ぶ機会を設けた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

高校3年生では、3週間のヨーロッパ美術旅行の際にドイツのユネスコスクールでホームステイをし、自分達の学びの発表を通して交流を図っている。また横浜シュタイナー学園とは6年生の体育のオリンピック競技会を通じて交流し、京田辺シュタイナー学校とは高等部の交流会でお互いの学びをシェアしている。今年度はASPnetを通じて、ブラジルのユネスコスクールの教職員の方々の学校訪問を受け、交流出来たことは大きな成果だった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

私達 NPO 法人の学校にとって、ユネスコスクールとして活動しているということ自体がまず社会的に認められる大きな一助となっている。また、シュタイナー学校関係にとどまらず、他の公教育との共通点を見出し学んでいけることもメリットと考える。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

小学部 1, 2 年生：年間を通じ、散歩など多摩川の自然と直接触れ合うことから学ぶ。

小学部 3 年生：校内の田んぼでの米作り。

近所の農家、職人の方々との交流。

小学部 4 年生：郷土学で多摩川の歴史、人々の暮らしを学ぶ。

小学部 5, 6 年生：多摩川に存在、生息するものを通して、人間とのつながりの中で動物学、植物学、鉱物学を学ぶ。

小中学部 7, 8 年生：クリーン多摩川に参加する。

高等部 9 年生：農業実習（宮崎県綾町）

高等部 10 年生：職業実習、測量実習（長野県野辺山町）及び八ヶ岳登山

高等部 11 年生：福祉実習、経済地理（エコロジカルフットプリント）、一部生徒による他国シュタイナー学校との 3 か月間の交換留学

高等部 12 年生：ヨーロッパ美術旅行、自然観察学習（東京都大島町）、民族地理、卒業論文発表